

ほし 彩星 だより 第111号



若年性認知症家族会・彩星の会会報 令和3年5月号

〒160-0022 新宿区新宿 1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ 605

TEL 03-5919-4185/FAX 03-6380-5100

E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

若年認知症の人との出会い、彩星の会との出会い

一般社団法人 スリーユー 代表 梅原早苗

(全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会 副代表理事)



若年認知症の人とはじめて会ったのは、1993年老人訪問看護ステーションに働いた時に出会った女性の方です。介護保険ではなく、老人保健法の改正により在宅介護が注目され始め、主治医の指示があれば看護師の訪問ができるようになった時期。介護者の娘さんの出勤後、認知症の母親の見守り訪問看護でした。その次に会った方は、2001年グループホームの第三者評価外部評価調査員として訪れたグループホームで、母親と一緒に入居している男性の方。高齢者の女性の中、何をしてもなく一人で座っておられた姿が印象的でした。この2人の方との出会いで、若年認知症の介護者・家族会について私なりに情報を集めはじめました。彩星の会が発足された時期だったと後から知り、不思議なご縁を感じました。

(当時、若年痴呆家族会だった)彩星の会との出会いは、2003年の秋の新聞記事だったと記憶しています。東京で開催されている家族会の事務局が群馬県だったので少し遠いなどと思い、すぐに行動はできませんでした。翌年、事務局を港区六本木のアラジンの事務所に移転されたと知りすぐに伺いました。アラジンの代表の牧野さん、彩星の会代表の萩原さん、副代表の干場さんから若年認知症の介護者家族の困難、苦悩や不安を伺っても、知識のない私はただ聞いて聞くだけでした。また、当時は作業療法士の駒井さんを中心にサポーターをされていたミニデイサービス、スタープラスにも参加させて頂き、駒井さんから若年認知症の人への対応ポイントを教えて頂きました。「若年期に発症した認知症の人への対応」ではなく、今では当たり前の「一人ひとりに寄り添うマンツーマンでの対応」です。参加メンバーの皆さんの明るさは、私が最初に出会った若年認知症の方と印象が全く違うのには驚きでした。(余談ですが、スタープラスでメンバーさんと近隣を散歩した時に、若い頃は「夜の街だ」と思っていた六本木に「陽の光」がある事を知ったことが、もっと驚きでした！)

彩星の会のサポーターは宮永先生、比留間先生、木舟先生をはじめ素晴らしい専門職の方ばかりでした。ここで、勉強させて頂こうと「夜行バス」や「青春 18 切符」を使って、大阪から彩星の会に参加させて頂きました。帰りの夜行バス

の時間までに参加した六本木の居酒屋での「飲ミニケーション」、会員が揃うまでメンバーさんやご家族がワイワイと飲み始めるのは、「本番の前の練習飲み」、彩星の会の会員になるためには「生グレープフルーツの絞り方検定」がある事なども初めて知ったことで、若年認知症の人と家族の会である事を忘れて楽しめる会でした。後日、丁寧に謝りましたが、居酒屋では3代目代表の小沢さんご夫妻は、奥様が認知症の方だと思い込み、ご主人様と話を真剣にしていました。きっと周りのご家族やサポーターの皆様は、私たちの会話を暖かく見守ってくださっていたのだと思います。その時に、大阪にこのような家族会ができないだろうかと相談したら、干場さんから「応援するよ」と心強いお言葉を頂き、彩星の会のサポーターの方々のご支援の下で、2005年2月、大阪に若年認知症支援の会・愛都(アート)の会を発足しました。翌年、映画「明日の記憶」が公開されたこともあって、若年認知症について広く社会に知って頂く機会となりました。

彩星の会から分離独立された「若年認知症サポートセンター」の会員となり、全国に若年認知症の家族会、支援者の団体があることも知りました。その後、若年認知症サポートセンターの支援で、全国にある若年認知症の家族会と支援者の団体の全国組織として、2010年「全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会」を発足して頂き、発足時のメンバーとして参加、「全国若年認知症フォーラム」開催などの活動を続けてきました。そして、会員団体の皆様の要望もあり、今年4月に「一般社団法人」として新たにスタートしました。彩星の会4代目代表の森さんにも理事になって頂きました。20年間の経験と蓄積のある彩星の会。森代表の切れ味鋭い、温かみのあるお言葉を「全国若年認知症協議会」でも発して頂けることを、法人設立メンバーの一人として心強く思っています。

彩星の会は、会員であるご本人とご家族の皆様「拠り所」であることは勿論ですが、20年間の家族会の継続は、全国の若年認知症の家族会の「頼り所」でもあります。これからの更なる発展を期待して、巻頭の言葉とさせていただきます。

桜も満開の3月28日(日)、定例会が新宿区立障害者福祉センターで開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言の為、1月は会場での開催は出来ず、オンラインのみでの開催を余儀なくされましたが、3月21日に東京では宣言が解除されたので、今年の11月以来の会場での開催となりました。感染リスクを考慮し、Zoomによるオンラインも利用した二本立てで行いました。会場ではご本人、家族、ボランティア、世話人の16名、Zoomでは12名の方々が参加されました。



11月に経験済みの二本立て開催、その時は音声に課題があったので、担当世話人とボランティアの方々とで、機材を前回同様パソコン5台、ポケットWiFi2台、Webカメラ3台、iPhone1台を用意し、準備万端で臨みました。その甲斐あって音声は改善されましたが、映像について多少課題が残りました。

事前に参加希望者を募っていましたが、感染リスクを避けるための人数制限の所為か、家族会員からの連絡はなく多少寂しい気もしました。それでも今回は、会員でご本人の樋口賢氏に講演して戴き、森代表と三橋世話人、樋口氏のユーモアを交えた座談会は、Zoomでご参加の会員の皆様にも多くの感動や共感をお届け出来たのではないかと思います。介護者の思いとご本人の思いの違いにあらためて気付かされたとの感想等も述べられました。

Zoom参加者の交流は自己紹介で始まり、新しく会員になられた方々との対話がありました。

自動車の運転についての相談で、ご本人が運転の能力テストを受ける予定で合格するであろうとのこと。

いずれやめさせなければならない時に、どのように対処したら良いか、無理にやめさせることは良くない、出来る限り運転をした方が良く、本人が運転に自信が持てなくなる時が来るのを待つ等の意見がある一方、認知症と診断された人は運転してはいけないということ、事故を起こした場合には保険が下りないという事実がある、事故に結びつく前に運転をやめてもらうことが大切であるとの意見が多数ありました。

一方、診断されたばかりでご本人と介護者の間でイライラが募り、これからの事への不安が大きいとの悩みも話されました。

最後に代表、副代表の感謝の言葉で締めくくられ、次回5月の新宿御苑散策への期待を述べて閉会となりました。



今井多津子様

長年の「認知症よろず相談室」ご担当を心より感謝申し上げます

彩星の会 代表 森 義弘

今井多津子様には長年、賛助会員としてだけでなく、5年間という長い期間を都立松沢病院で「認知症よろず相談室」をご担当いただき、誠にありがとうございました。

「定例会」、「会報ほしだより」と並んで、彩星の会の重要事業の一つである認知症よろず相談室で、今井さんは心理カウンセラーとして月2回、都立松沢病院内において、認知症ご家族からのご相談を受けていただきました。

認知症ご家族が多く不安を持ち、「認知症よろず相談室」に入室され、話す順序さえも整理できないまま悩みを打ち明けて話されるなかで、今井さんは傾聴され、相談者の「悩み」を解明、豊富な相談経験と専門知識による適切なアドバイスで相談者の不安を解消し、安心と希望をもたらしたと思います。そして一言つけ加えるならば、今井さんの素晴らしい笑顔が相談者に一層の安心感をもたらしたことは間

違いないと思っております。

また、2か月に一度の定例会開催日は、講演会場で使用する備品などの搬出するために早朝より新宿事務所に向ういていただきました。

さらに、当日は受付担当者として、参加者名簿や資料配布などの仕事までお引き受けいただきました。改めてお礼申し上げます。

今後は地域のボランティア活動に専念される中で、彩星の会のサポートもご協力をいただけるとのこと感謝しております。

今井様の笑顔と豊富な知識をもって、益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2021年3月22日

令和2年度総会報告書

本年3月28日10:00～11:00に令和2年度総会を彩星の会事務所にて開催しました。新型コロナウイルス蔓延が収束しないため昨年に引き続き、原則書面開催とし、事務所には代表 森 義弘、副代表 羽鳥彰紘の2名のみが出席しました。家族会員の皆様あてには議案書を郵送した上で議案への賛否を記入したハガキを返送いただくことにより出席したものとみなすことと致しました。

なおハガキに賛否の表示ないものは議長に代わり代表が委任を受けることにしました。

家族会員 120名 うち返送されたハガキ通数 93名(当日出席者 2名を含む。出席表示し当日欠席の会員 1名を除く。回収率 77.5%)

議案は下記の通りです。

- 第1号議案 令和2年度 活動報告の承認の件
- 第2号議案 令和2年度 決算報告の承認の件及び 監査報告の件
- 第3号議案 令和3年度 活動計画(案)承認の件
- 第4号議案 令和3年度 予算(案)承認の件
- 第5号議案 令和3年度 役員選出(案)承認の件

代表 森 義弘

副代表 小澤 礼子 副代表・会計 羽鳥 彰紘

世話人 青津 彰、伊藤 直子、大野 裕子、佐野 光秀(新任)、鈴木 富美子、
土橋 慈子、藤沼 三郎、二見しづ子、三橋 良博、柳井 明子

(アイウエオ順)

監事 中島 由利子

事務局 中村 はるな(新任)

顧問 宮永 和夫、干場 功、比留間 ちづ子、勝野 とわ子、牧野 史子、
木舟 雅子、小野寺 敦志、厚東 知成 (敬称略)

上記議案に対し返送されたハガキの内訳

賛成:50名 賛否を議長(代表)に一任:41名 合計91名(全て賛成)

総会出席者:2名(全て賛成) 総計93名(全て賛成)

上記の通り各議案とも賛成が過半数であり原案の通り可決されました。

以上ご報告いたします。

令和3年3月28日

代表(議長代行) 森 義弘 印
署名人 羽鳥 彰紘 印

認知症治療薬「アデュカヌマブ」について

公益社団法人認知症の人と家族の会 副代表理事

川崎幸クリニック 院長 杉山 孝博

2020年12月10日、バイオジェン社とエーザイ(株)は厚生労働省に、認知症治療薬候補である「アデュカヌマブ」の新薬承認を申請しました。

アデュカヌマブは、アルツハイマー病の原因であるアミロイドベータ(A β)を標的とする抗体で、A β と結合して除去することで、軽度認知障害(MCI)および軽度アルツハイマー病の悪化を遅らせることができるとされています。

現時点では厚生労働省や米国のFDAが承認するかどうか不明ですが、認知症治療において注目されていますので、取り上げてみたいと思います。



アルツハイマー病の原因について

アルツハイマー病(アルツハイマー型認知症)は、側頭葉、特に海馬などの神経細胞が変性し死滅することによって発症する認知症で、認知症の最大要因です。

神経細胞の変性には、①老廃物であるアミロイドベータ(A β)が神経細胞の周囲に沈着すること ②神経細胞内で物質移送の重要な働きをする神経原線維が変化して、異常な線維の束が出現する(神経原線維変化とよぶ)こと の2つの変化が関わっています。

A β は、神経細胞の膜に存在する β たんぱく前駆体が酵素による切断をうけたとき発生する老廃物です。細胞外に出ると速やかに除去されるのですが、除去されずに残っていると、重合して、ダイマー \rightarrow オリゴマー \rightarrow ポリマーとなって最終的には糸くずのように固まって老人斑となります。A β の沈着が神経細胞を傷害して神経細胞の変性を促します。

A β の沈着が始まって20年ほど経過すると、神経原線維変化が始まり、次第にMCIや認知症が出現します。神経原線維は、細胞体と比べて極めて長い(時には1mにもおよぶ)神経線維の末端にまでエネルギー、物質や情報を運ぶベルトコンベアーの役割をはたしています。神経原線維が変化すると神経線維や末端にあるシナプスが破壊され、神経細胞の変性と死滅をもたらして認知症などの疾患を発生させます。

アミロイド β に対する免疫療法

A β に対する抗体を体に作らせてアミロイド沈着を抑えようとするワクチン療法やA β に対する抗体(モノクローナル抗体)をあらかじめ作っておいてそれを注射で投与するという受動免疫療法に関する研究が数多く行われましたが、臨床試験での効果は見られませんでした。

バイオジェン社は2019年無益性解析の結果をうけて臨床試験をいったん打ち切りましたが、その後追加解析により早期アルツハイマー病患者に有効性が示されたと発表し、2020年7月米国FDA、11月欧州、12月10日日本に販売承認の申請をしました。FDAはアデュカヌマブを優先審査に指定し、2021年3月7日までに承認の可否を判断することになりましたが3か月間延長され、6月7日に設定されました。FDAの諮問委員会では、アデュカヌマブの有効性については十分なエビデンスがあるとは判断していないようです。

アデュカヌマブ治療の実際と問題と効果

販売承認が許可されるかどうかは未定ですが、許可された場合の治療の実際と問題点について考えてみます。

第1は、投与法が点滴による静脈注射(月1回実施)で、どれだけの期間継続すればよいかは不明であることです。

第2は、適応対象が軽度アルツハイマー病(MCIを含む)で、進行したアルツハイマー病に対しては、現在のところ適応はありません。

第3は、軽度アルツハイマー病(MCIを含む)であればそれでも良いというのではなく、アミロイド蓄積が証明された者となるでしょう。

もし、販売承認され効果が認められたら、認知症は、「進行を抑えることはできても治せない疾患」という認識から、「治療可能性のある疾患」と理解されるようになって、認知症のイメージが大きく変わるきっかけになるかもしれません。



有害症状

減薬しても認知機能維持 多剤併用で「ポリファーマシー」改善へ

高齢者施設で暮らす約900人を1年間観察したところ、服用する薬を減らすか維持した状態を続けても認知機能や生活の質がほぼ変わらなかったことが、東京大などの共同研究で分かった。多くの薬を併用することで体に悪影響が出る「ポリファーマシー」は、特に高齢者で問題になっている。研究グループは「心身の状況を落とさず減薬できると分かった。無駄な薬剤費の削減にもつながる」としている。（五十住和樹）



減薬に取り組んだのは、介護事業の「らいふ」（東京）が東京、神奈川、埼玉、千葉の四都県で運営する介護付き有料老人ホームなど計31施設に入居する55～108歳の1634人。2018年12月から減薬を始め、研究では、このうち19年3月～20年3月まで追跡できた891人を分析した。

入居者全体の七割は軽度も含め認知症を患い、高血圧や心臓病、脳梗塞などの基礎疾患のある人も多かった。減薬前には、1回当たり平均で約7剤の薬を服用。多剤併用の影響とみられる徘徊（はいかい）や暴力、幻覚、せん妄などを起こす人もおり、介護にあたる職員の負担が増加していた。

法人全体で医薬品の適正使用に取り組む方針を周知し、入居者やかかりつけ医の承諾を得て減薬を推進。ふらつきなどの副作用があるベンゾジアゼピン系催眠鎮静薬は使わないなど、専門医と検討して具体的な使用薬剤の方針を明示した。それに基づき、訪問薬剤師が処方提案書を医師に出し、処方量を減らしたり、薬を変更したりした。さらに、医師や看護師、薬剤師が2週間に1度同席し、入居者らの健康状態をチェックして処方を調整した。

研究グループは、薬剤費を減少・維持できた501人（56・

2%）と、薬剤数を減少・維持できた593人（66・6%）を、認知機能や日常生活動作（ADL）などを判定する5つの指標を用い、薬剤費や薬剤数が増えた人と比較。その結果、薬剤費を減少・維持できた人は全ての指標で、薬剤数を減少・維持できた人は4つの指標で、増えた人より認知機能などが維持されていた。

らいふ取締役の小林司さん（61）によると、減薬して状態が改善した人もいる。5種類の薬を服用し、認知症で大声を上げたり、対人トラブルがあったりした男性（88）は、重複していた認知症薬を1つにし、高脂血症治療薬と胃薬を中止して2種類に減らしたところ、1カ月で興奮状態が落ちついた。12種類の薬が処方されていた認知症の女性（91）は、認知症薬や睡眠安定剤などを減らして2種類に変更。2ヵ月月後には夜間の徘徊が収まり、笑顔も出るようになったという。

神奈川県保険医協会が19年12月に実施したポリファーマシーの調査では、県内の563医療機関の医師や、1088薬局の薬剤師が回答。多剤併用の原因について過半数の薬剤師が「薬の副作用に、さらに薬で対応するから」と答えた（複数回答）。また医師の7割、薬剤師の4割が「できる限り（多剤併用に）対応している」としたが、「多疾患の患者はどうしても薬剤種が増える」「患者の抵抗が強く、薬の中止や減量が進まない」「お薬手帳の大切さを患者が理解せず持参しない」などの声もあった。



研究グループの1人で、東大大学院薬学系研究科客員准教授の五十嵐中（あたる）さん（41）は、医師と薬剤師の連携強化などの対策を訴える。「薬剤師は処方に疑問があれば、医師に指摘する姿勢が重要。医師側もきちんと聴く姿勢が求められる」

(5) 最後のことば「あ・あ・あ・あ・・・」

野上 高伸



最初の認定から13年目に最上位の要介護5となり、歩行はもちろんしゃべることもほとんどなくなりました。そこで町内の施設で、車で10分程度、デイサービスやショートステイ、特養など兼ねた統合施設に2年間通うことになりました。近いので私も土曜日や日曜日には、昼食の介助に行ったりしてかなり自由な組み合わせをしており、翌年の1月にはその特養に入所する約束も取れていました。その施設の職員の方も前の施設同様に親切な方が多く、毎日を過ごしておりましたが、入所2年目の夏に最初の誤嚥性肺炎を起こしました。日曜日でしたので町の救急車を呼び、わたくしも同乗して近くの大学病院へ行きすぐに入院し、そこで診断されました。その時は1週間で退院することができましたがそれから3カ月後の11月、また日曜日に誤嚥性肺炎を起こし、今度は少し遠い平塚の市民病院に救急車で運ばれ、19日間に亘る入院となりました。医師からは「これからは口からの摂取はむずかしいので口からの摂取を断念するか、そうすると1週間くらいで生命がたたれますが、どうしますか」と問われました。妻の命にかかわることなので、延命措置を行うか、それとも……子供たちとも相談したいので少し時間を下さい、と頼み、3人の子供に初めての、しかも母親の生命にかかわる意見を求めましたが、それぞれ明確なことは言いませんでした。私は延命についての石飛幸三先生の講演を2度聞き、「平穏死」の本も読んでおり、頭の中ではこの考え方に共鳴しておりましたが、しかしいざとなって、ベッドに横たわり、じっと目を開いている妻を見ていて、カテーテルを外すと、あと1週間で命がたたれますよ、と言われたときに、これまで51年間一緒に生活してきた妻がこのまま命を絶つということはどうしても耐えられませんでした。考えに考えた末に、中心静脈からのカテーテルでの栄養補給で命をつなげる措置のできる病院への転院を選択し、この年の11月下旬に転院しました。



この施設は、平塚駅からバスで15分くらいのところにあつて、医療法人高根台病院といい、地下1階地上5階建ての236床の内科とリハビリテーション科の施設です。入院当初は高熱が出て危険な状態でしたが、その後症状が安定し、毎月の血液検査や3カ月に1回程度のCRP(医療総合検査方法)の結果報告、高熱が出た場合のカテーテルの場所の変更(左右の肩や大腿部)など家族には丁寧な説明がありました。しかし口から何かを飲んだり、食べることは再三要望しましたが、これは最後まで許可が出ませんでした。この病院は高台にあり、駐車場になっている広場の周りには春になると咲き誇る満開の桜が名物となっており、妻の乗った車いすを私が押して、入所の翌年とその次の年の2度ほど満開の桜を、仰ぎ見ることができたのが強い印象として残っています。



2年がたった年明けの1月7日朝5時半ころ、隣の市に住んでいる長男から電話があり、お母さんの様子が急変したので、すぐ行くようにと病院から電話があったということでした。私は慌てて飛び起き、歯磨きと洗顔をそこそこにタクシーを呼んで駆けつけました。2階の病室に飛び込むと看護師が一人で横たわっている妻のわきにいて、昨夜から様子がおかしいので、まず私に電話したが出ないので、長男に電話したということでした。妻は眼は半開きに、盛んに口を開けて「あ・あ・ああ・あ・ああ・あ……」と繰り返しています。私は看護師さんに、なんと言おうとしているのかと尋ねましたが、わからないということでした。その日は夜帰宅し、翌朝早く来てみると、眼を半開きにして昨日と同じように繰り返しています。だがこの日は、同じように繰り返していましたが、そのうちに目を閉じてしまい、それからは何も言わなくなりました。妻はこの日の午後5時ころに、つけていた心音の音が静かに消えるように小さくなり、最後に音がなくなったときに、「寿命が尽きた」と、医師から告げられました。身体の臓器すべてに菌が入り込んだために、まったく苦しまなくて死を迎えることになったと医師から説明を受けました。死の2日前から盛んに発した「あ・あ・あ……」ですが、そのあと葬儀迄の3日間、自宅に寝かせて考えたことは「ありがとう」と言いたかったのではないかと、私は思いました。それにはわたくしも「ありがとう」と生きているうちに伝えたかったのが唯一の心残りです。

今現在、妻が亡くなって人間の生と死の大きな、測りがたき距離をいま感じております。

介護 **ワン** ポイント 体験談

Q 「意欲がなく、イスから立ち上がろうとしない。
すぐに横になる」 にたいして

A 『ゴミ出し、回覧板など小さい役割をお願いして』うまくいった

No.31



Q 「友人夫婦と食事した時、
妻が「主人じゃない、気持ち悪い」と言った時」

A 『友人夫婦に目配りして、一度席を離れて5分ほどしてから戻った』
同席に成功した。

No.32



会報

作ってます！

Nakamura haruna

profile

みなさんこんにちは！

私は、彩星だよりを 107 号から担当を任されました。

編集の経験は全くありませんが、囁かしく見守っていただけたら幸いです。

感想をお待ちしております♪♪♪

どうぞよろしくお願いいたします！

好きな事：食べる事

みなさんは何が好きですか？

会報を通して
人との
繋がりを
大切にしたいです

会報のデザインで
楽しく
喜んでもらえる
表現を考えます

愛読書：『推し、燃ゆ』

みなさんの推しを
教えてください！

会報が少しでも
多くの人に
手に取ってもらえ
たら嬉しいです

・・・寄付のご報告・・・

下記の方々からご寄付をいただきました。

(2月～3月)

森田政江様、野口恭子様、志垣美津子様、中村敏子様、山花洋様、米沢久子様、稲葉英一様、伊藤直子様、中島由利子様、太田礼子様、加藤千恵子様、金子和彦様、水村 徹様、佐野雄一様、柿崎みゆき様、無藤清子様、米村浩明様、米村純代様、二見しづ子様、佐竹雅代様、青津 彰様、

寄付合計額

- 一般寄付(1月～3月)245,000円
- 20周年プロジェクト(1月～3月)80,000円

20周年
プロジェクト累計額
1,789,250円

厚く御礼申し上げます。彩星の会事務局

Webサロン
開催のお知らせ

Zoom を使って

Webサロンを開催しています。

毎 週 火 曜 日 20:00～20:40
毎月第一 土 曜 日 20:00～20:40

パソコン・スマホから招待メールをクリックするだけで参加できます。
毎回沢山の方が参加され情報交換しています。操作方法についてもお尋ねください。

訃報 (2～3月)

佐藤 義治 様(小検山和子さんのお兄様)
新垣 正夫 様(新村 康子さんの弟さん)
小林 俊孝 様(小林千代子さんのご主人)

ご冥福をお祈りいたします。 世話人一同

■ ご相談・ご入会は彩星の会事務局までご連絡ください

【相談日】月・水・金 11:00～15:00 (但し当分の間水曜日のみ)

電話:03-5919-4185 FAX:03-6380-5100

E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp HP:<http://www.hoshinokai.org>

■ 年会費家族会員 5,000円 賛助会員 A5,000円/B3,000円/C10,000円

■ お申込み(ご入金)は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号:00170-7-463332 加入者名:若年性認知症家族会・彩星の会



編集後記



私のお茶の先生は今年で90才。ご自宅から着物を着てバス、私鉄、JRと乗り継いでお稽古場に来られます。最近では直近の出来事を忘れることがありますが、茶道に関しては完璧です。私はというと教えて頂いても直ぐに頭から飛んで行ってしまいます。稽古場ではメモ禁止ですが密かにメモってます。ごめんなさい先生ー (あん)